

2022年度 学校評価報告書

青山高等学校

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活を通じて人格を陶冶し、社会で輝くグローバルリーダーを育てる。 ○寮学習プログラムを推進し、より高い学力を身につける。 ○知的・芸術活動の活性化により高い成果を出せる学校となる。
------	---

(1)学校基本方針における今年度重点取り組みについての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ○規律ある規則正しい生活を基本とした生活指導を全教員が実践する。 ○各学年がその学年に応じた役割と責任を持った生活を送れるよう指導する。 ○清潔で衛生的な生活環境を常に維持するよう指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○規則正しい生活指導の必要性の根拠として、「生活が陶冶する」との認識を教員間で共有し、指導にあたることができた。 ○様々な活動において、役割や責任を明確にし、その学年に相応しい活動責任を果たす指導を行なうことができた。 ○新型コロナウイルスへの感染対策も考慮し、衛生的な生活環境を維持するための指導も行われ、その結果、新型コロナウイルスへの感染者が確認された後も感染の広がりを抑えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員研修などを通じて「生活が陶冶する」との考えを共有する機会を複数回設けたことにより、この考え方の浸透を図ることができた。しかし、教員間での理解に差があり、指導に影響が出ている側面もあるため、今後も継続して共有するための活動が必要である。 ○寮内の委員会活動や生徒会活動、実行委員会活動、また、クラブ活動など他学年が共に活動する場面において活動の目的や個人の役割、責任を明確にして活動することで、各学年において責任を持った行動ができるようになってきている。 ○全寮制において感染症への感染は、大規模な感染拡大につながる重大な事案であるが、衛

			<p>生的環境の徹底と生徒への意識づけなどにより、感染者を通しての感染拡大を抑えることができた。今後も継続して指導していく必要がある。</p>
<p>学習指導</p>	<p>○教科指導・寮学習の連携により、他校にはない飛躍的な学力の向上をはかり、3段階のステップを踏まえ進路を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1段階：入学当初は学習習慣を身に付ける事に重点を置き、日々の取り組みにより学習姿勢の習慣化をはかり、英語・国語・数学において中学校学習範囲の基礎学力の習得を目指す。その為の具体的方法は、寮ではHRで毎日実施されるdaily testで高得点を取ることができるように指導する。(英検・漢検・数検3級～準2級) ・第2段階：高校基礎学習範囲の学習に入る。寮学習は各教科から日々課される学習課題に取り組む。(英検・漢検・数検準2級) ・第3段階：検定の合格を目指す学習から常に模試を意識し大学進学を意識した学習を心掛けるように指導する。個々の生徒に合った問題集を教科指導者が示し、個別の受験指導を行う。 	<p>○1年生の学習習慣と基礎学力の定着を目的とした学習指導においては、各クラス担任と寮が連携して概ね指導の形が整い、継続的に指導することができている。不登校の経験がある生徒においても検定試験に合格することができている。</p> <p>主に2学年における学習指導としての第2段階の指導においては、A組を中心とした指導にどどまってしまう。</p> <p>さらに、大学進学を意識した第3段階の指導においては、A組において、一般受験を目標とした生徒を中心とした学習にとどまってしまう。</p> <p>○主体的・対話的学びを実現する指導法の一つとして、ハークネステーブルを取り入れた指導を実施し研究を進めている。その結果、徐々にグループワークなど主体的・対話的な学びを取り入れた授業が取り入れられてきている。</p>	<p>○1年生の学習習慣と基礎学力の定着においては、入学当初から各寮において夜間自習室に1年生を集めて学習に取り組ませることによって学習習慣の定着をはかり、概ねこのことによって習慣づけが行われている。また、一斉に実施している英単語の音読や課題プリントの実施などを継続することで基礎学力の定着など、検定試験の受験結果(合格者数、得点結果など)から一定の効果が出ていることが確認された。しかし、生徒によっては努力が結果に反映されにくい生徒もあり、それら生徒の学習に対するモチベーションを維持することが課題となってきた。</p> <p>2年生を主とする第2段階の学習においては、学習に目標を持って取り組める状況の生徒には与えられた課題に積極的に取り組み、学力を向上させている状況が模擬試験の結果などがからも伺うことができるが、そうでない生徒にとっては課題の与え方により意欲的に学習</p>

	<p>○学習指導改革会議を定期的で開催し、主体的・対話的学びを実現するための指導法について研究し推進に努める。</p>		<p>に向かう工夫が必要となってきた。</p> <p>大学進学を意識した第3段階の学習においては、多様化する受験方式により、必要となる学習方法も多様化してきており、一律の指導では対応できない状況が生まれてきている。従来の一般入試を目指して学習に取り組む生徒に関しては、担任が精神的な支えとなりながら学習を進め、受験に臨ませ大学への合格を果たしている。また、多様化する受験に対しても関係する教員が協力しながら受験に取り組める体制が整いつつあるが、全教員が多様化する受験を理解し受験指導する体制の構築が急務となってきた。</p> <p>○主体的・対話的学びとしてのハークネステーブルについて、教科ごとに取り組むべき月を定め全教員が年に複数回取り組み振り返りをおこなうことにより、グループワークなどを取り入れた授業を実施する回数が増えている。学習指導改革会議については、定期的な開催時間の調整が難しかったが、3学期以降定期的に実施できるよう調整を図り開催できるようになったため、次年度以降につなげることが可能となった。</p>
--	---	--	--

<p>知的活動 (時代が求める活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバル探究を柱とした指導の実践により、世界に目を向けた広い視野を持ちながら「問題意識」「情報収集力」「整理・分析力」「表現力」などの力を培い、主体的な学びを実践する。 ○「世界を知る」活動として、国際的な話題について3分間プレゼンを寮で行う。 ○グループワークとしてハークネステーブルを恒常化する。 ○探究活動による報告会を毎学期末に開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○探求学習のテーマ設定を世界で問題となっている環境、経済、医療倫理、貧困などに絞ったものとする事により自分の身の回りの出来事から世界の広い世界に視野を広げることが可能になった。また、個々に設定したテーマに沿った探究を指導してく中で、テーマに沿った様々な情報を収集することから問題点を考え、分析する指導を教員が行うことで、さらに新たな疑問を生むことなど学習の深まりも出でくようになった。また、年度末には、それぞれの学習成果の発表会も開催することで、個々のプレゼン力の向上に繋げることもできた。 ○各寮において夜の集会時に毎日交代で、世界のニュースの中から気になった見出しを取り上げ、3分間で皆に紹介する活動を継続して実施することで、世界で起きている事柄に関心を持つ生徒ができてくるようになった。また、皆の前でニュースを紹介し発表することにより、プレゼン力の向上に繋げることができた。 ○寮における委員会活動やクラブミーティングなど話し合いの機会にハークネステーブルを用いることを推奨し実践することで、自分の意見や考えを発表すること、他人の意見や考えを 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究学習を行うにあたり、世界へ目を向け広い視野を身につけられるよう探究テーマを環境、経済、医療倫理、貧困という4つのテーマとしたことで、それぞれが世界で起きている問題に目を向けやすくするきっかけとすることができた。 ○各寮で実施している世界を知る活動において、当初ニュース記事を読むだけで終わる生徒も多く見受けられたが、回を重ねるにつれてニュース記事の内容をまとめ自分の言葉として伝え、自身の感想や意見も発表できる生徒を増やすことができた。 ○調べ学習や教科学習内でのグループワークにおいてハークネステーブルを実施していくことにより、寮の委員会活動において、問題解決のための話し合いなど、それぞれが意見を出し合い互いの意見に耳を傾けながら解決策を導き出すなど、学習活動以外の活動においてもハークネステーブルを利用した活動が見られるようになってきている。そのことにより活動がより主体的なものとなってきている。
----------------------------	--	--	--

		聞くことなどができるようになり、内容の濃い話し合いやミーティングへと変化する兆しが見られるようになった。	
芸術活動	<p>○「アートフルライフ」の活動の一環として、生活の中に芸術を取り入れ、感受性豊かな心を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎と寮にアートスペースを設けて、帰省ごとに新設展示を行う。 ・寮に芸術委員会を設置し、芸術活動のリーダーを育てる。 ・定期的に校外の芸術作品や文化・演劇などに触れる機会を設ける。(年5回) <p>○学内外で発表・表現する機会を増やす。</p> <p>○校外でのコンクール入賞を目指す。</p>	<p>○校舎や寮においてアート作品を展示し、定期的に展示作品の入れ替えをおこなう活動を継続することができた。このことにより生徒も自然にアート作品に触れることができ、一般教養として有名絵画に対する知識などを得ることができるようになった。</p> <p>○食堂内に電子ピアノなどの楽器を置くことによって、自由に演奏し発表できる場を設置することで、音楽に関心のある生徒が積極的に利用し音楽表現を楽しめるようになり、感受性の育成に繋げることができた。</p> <p>○コンクール等出場結果</p> <p><和太鼓部></p> <p>第42回近畿高等学校総合文化祭(和歌山大会)郷土芸能部門 出場</p> <p><吹奏楽部></p> <p>三重県吹奏楽コンクール 高等学校 B 編成の部 銀賞</p>	<p>○校舎において近代芸術家村上隆の作品を展示し、生徒全員に鑑賞の機会を与え、作品に対する感想や意見を求めることで、芸術に対する興味関心及び感性の醸成に努めた。また、各寮においては、モネやピカソ、シャガール、村上隆などの絵画などを展示し、定期的に各寮の作品を入れ替えすることで、様々な作品に触れることができ、作品の違いなど感じ取ることができるようになった。</p> <p>○食内に楽器を自由に触れられるスペースを設けて演奏や発表を可能としたが、使用者が楽器演奏経験者に限られたり、使用できる楽器の数の問題などにより一部の生徒の利用に偏る傾向が見られた。幅広く多くの生徒の利用を促すには、今後改善が必要となる。</p>

<p>リーダー 育成</p>	<p>○企業リーダーや経営者による講演会、懇談会を開催。</p> <p>○寮委員会活動の「プロジェクトチーム化」を推進し、委員会活動報告会を開催する。</p>	<p>○社会で活躍する経営者などによる講演会及び懇談会を開催することにより、リーダーとして心構えや目標の設定など様々なことを学ぶ機会をもうけたことにより、リーダーシップの取り方や責任者としての心構え、周囲から信頼を得ることの大切さなど日々の活動に活かしていこうとする姿勢が見られるようになった。</p> <p>○寮の委員会活動において、問題点を解決するための手段として、プロジェクトチーム化を図り、ハークネステーブルを活用しながら問題解決に組織的に向かう活動に近づけることができるようになった。毎学期末にこの取り組みについて報告会を実施することで計画的に活動を進めること、活動状況をまとめ成果として発表するための工夫など探究活動につながる活動とすることができた。</p>	<p>○講演会・懇談会は、計4回実施した。第1回は観光・宿泊業経営者、第2回は在モンゴル日本大使館員、第3回はFM三重パーソナリティー、第4回は津市市議会議員。それぞれがこれまで歩んできた中での苦労や活躍するための原動力となっているものなど実体験をもとに様々な方面からの講演やその後の懇談などしていただいた。普段聞くことのできない内容であることなら参加生徒は大きな刺激を受けることができた。今後も継続的に実施していきたいが、講師として参加いただく方の都合など調整が難しく担当教員の大きな負担となる側面もあり、実施形態や回数など検討の余地が残った。</p> <p>○委員会活動のプロジェクト化については、当初各寮1つの委員会活動においてプロジェクト化を実施していくこととし、担当教員がアドバイスしながらプロジェクトを進めるよう指導してきた。この結果、徐々にではあるが、定着しはじめている。</p>
--------------------	---	---	---

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none">○全寮制教育の意義について統一的な理解がなされ活動が行われている。○目標に向かう取り組みの中で、教員間での協力体制がとられ組織的に活動することができている。○生徒の安全や衛生管理状態を保つための意思統一がなされ協力体制がとられている。○生徒の学習指導における教員間での連携がなされている。
弱み	<ul style="list-style-type: none">○長期的な展望に立っての取り組みが十分できていない。○様々な取り組みにおいて主導する教員に限られ、新たな人材が育成されていない。○実践している全寮制教育のメリットについての発信が不十分である。

(3)学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容	
<実施回数> 3回	
実施内容	<ul style="list-style-type: none">第1回(4月): 令和4年度の教育方針・活動計画及び教育目標についての説明、意見交換第2回(9月): 活動状況報告及び意見交換第3回(3月): 令和4年度活動報告及び成果等報告、意見交換

(4)学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none">○クラス担任、各教科、寮が連携することによるより効果的な学習指導体制の構築の推進○新型コロナウイルスなどの感染対策を施しつつも、多方面にわたる幅広い充実した活動の実施○感染症対策を踏まえた、より衛生的な環境整備の継続と維持○全寮制教育の魅力の発信のための具体的方策及び体制作り

(5)組織力向上のための取り組み(改善策)

次年度に向けた取り組み

- 効果的な学習指導により成果を上げるための学習指導システムの構築
- 寮内における知的活動の創設と継続的な活動の実施
- 全寮制教育の魅力の効果的な発信体制の構築
- 時代のニーズにあった新たな教育活動の模索と試行